

タイラギの垂下養殖法の開発

水産土木工学部

研究の背景・目的

1. 干潟の減少、環境の悪化により、天然資源が減少しているため、本来は干潟の埋在性二枚貝であるタイラギを、垂下養殖法を開発することで増産を図る。

研究成果

1. 波、流れに対して、埋在のための基質を安定させる養殖バックを開発
2. カキ筏などの施設を利用した養殖試験を実施し、天然と同等の成長が得られ、10cmサイズの稚貝を1年で出荷サイズの20cmに成長させることができた。

波及効果

種苗生産によりタイラギ種苗が、安価に大量に生産されることで、新たな養殖産業に拡大、発展する可能性がある。



10cmサイズの稚貝が11ヶ月で20cmサイズに成長



カキ筏から垂下された養殖バック

養殖バック内のタイラギの状況

(漁場施設研究室・高木儀昌, 森口朗彦, 開発システム研究室・大村智宏)